

職業と教育

産業教育研究連盟

第四卷 第二号

内容目次

- 進学指導は正しく行われているか(巻頭言)
冬季第四回研究協議会記事
産業教育は躍進する……………稲垣恒次
第五群の教育内容について…池田種生
文部省改訂案(第五群教育内容)
研究発表……………浜松市西部中学校
機械関係語いの調査……………矢野敏雄

2

進学指導は正しく

行われているか

中学校では、進学と職業とは犬猿の仲のようである。進学に浮身をやつす中学校ほど、養育・家庭科に不熱心だという定評であり、この教科担任を嘆かせる最大原因の一つでもあるようだ。三学期ともなれば、大抵の中学校の三年生（いや一年から）は進学組と就職組に色わけされ、大多数の校長は進学組に肩入れする。（そうでない校長も勿論ある。誤解なきように。）では、その進学指導は、正しく行われているだろうか。最近筆者は、生々しいまことに好適な実例にぶつかったので、それからまづ紹介することにしよう。

○ ある日中学校三年生徒を持つ母親が訪ねてきて、つぎのような相談をもちかけられた。「うちの子供は、御承知のように電気のが好きで、毎日そればかりやっているのですが、高等学校に進むについて、先生がおっしゃるのには、C高校を受けるには、テストの総合点数が三〇〇点はなければ駄目だ。それにはもう少し足りない。F高校ならよいが

とのことなんです。お父さんはつけ届けが少いのじゃないかというのですが、どうしたものでしょう。」

「I工業高校はどうなんです。」——筆者。

「子供の志望は最初からそれなんです。先生のいわれるのには、それではせまい道を歩むことになり、大学へ進むのに工合が悪いのだから、普通高校の方がよいとのこと、私たちとしては、先生が頼りですから、そうかしらと思ってるのです。」

（注、C高校は電車通学一時間二十分、F高校電車で四十五分、共に普通課程、転籍の要がある。I工業高校はこの地域で電車の必要なし十五分、しかも施設は非常に充実している。）

更にもう少し事情をきいて見ると、その子供はすでにラジオの組立は十分でき、毎日いちくり廻して、休みになると、どこかの展示会、どこの研究所と友だちをつれていく。変屈で無口で、従って音楽や体操などが駄目なためテストの総合点数がおちるらしい。

一方つけ届けは、校長と担任の先生へ毎月して、校長がC高校出身とかで、転籍のことまで頼まないのに行っているというのである。だから何とかしてC高校か、でなければ

F高校へと、先生が大変熱心に説くとのこと

○

これだけのデータから考えて、この進学指導は果して正しいといえるだろうか。

筆者の想像では、この生徒のいる中学校では、進学どころか、中学校そのものの教育があやしい。この生徒の電気の学習は、全く学校からとび出しており、恐らく教師以上の知識と技術を持っていると思える。生徒の実力と個性とが測定できず、指導のできない教師が、その将来を決定する進学の指導がどうしてできようか。また普通高校がどんな教育内容とどの程度の施設を持っているか、職業課程の高校の実状を具体的に調べたかどうか。恐らくこの生徒の成長を助けるに足る施設は普通高校にはないと断言できよう。

その後筆者のすすめに従って、この生徒は父母の同意を得て、I工業高校に決定したが若し辛くもCまたはF高校へ入ったとしても彼はそこで何を学び得るだろう。空白の四年間を送るにちがいない。何という恐るべき進学指導だろうか。むしろ父母のまちがった普通高校崇拜を是正すべき教師が却ってそれを推し進めている事実がここにあるのだ。それがコンミッションまでとっての進学指導とは。首を傾げざるを得ないではないか。（I）

第四回冬季研究協議会

かねて予告した通り、本連盟と新川中学校共催、愛知県教育委員会・碧南市教育委員会後援の第四回冬季研究協議会（全国産業教育研究大会）は、昨年十二月二十六・七の両日、新川中学校で開催されたが、全国から参集された熱心な参加者は四百数十名に上り、邸下にまであふれる盛況であった。

そのため、四つの分科会を開いて十一名の講師が分散したが、時間不足のため十分に話しあえなかったのは残念であった。つぎに掲げる、会場校教頭稲垣氏の文章は大会の前後から当日の様子が、よく伝えられているので、これをもって会の報告にかえさして頂く。（編集部）

産業教育は躍進する

碧南市新川中学校教頭

稲垣恒次

三河湾の海面を吹いてくる風はまだ寒い。しかし明けて昭和三十一年、新春の光は殊の外、希望と明かるさに輝いている。更に逞しい前進への意欲に身ぶるいを感ずる。「日々に新たに」これは本校の生き抜く姿である。息づまるようなあの大会、四百余名の会員を全国より迎え、大盛會裡に終了したあの第四回冬季協議会、文字通り不眠不休で当った私どもにとってはホッとした感じである。慌しかったあの二日間、いやそれ以前、全職

員、P・T・A、地区あげての真剣な態度は今もほうふつとして感謝の心で一ぱいである。しかし、静かにふりかえってみる時、遠路はるばる歳末多忙の中をかくも多数参会して下さった会員の方々に幾多御迷惑をおかけし連盟本部に対しても心ゆかなかった点多々あったことと思う時、心からお詫びしたい。

◇温い心で

回を重ねる毎にこの協議会は何か楽しいところ待たれる会である。殊に今回は産業教育

の中核である職・家の学習指導要領改訂案が長い陣痛のあげく発表された直後であり、更にその細案についても聞かれるという魅力もあってか、期待の大であることをひしと感じたのである。更に大きくは産業教育振興法も公布せられてここに五年、漸く産業教育も地につこうとし、その真実なる教育をおし進めるために、現場をどのように設営していくかと、真剣に取組もうとしているきざしが全国的にみえてきたことである。

こうした期待を強く感ずるだけに、会場を引き受けた本校の責任の重大であることを痛感したのである。そうかと言って、当地は別に温泉どころでもないし、夏ならば新須磨、新明石、新浜寺、玉津浦と白砂青松に打続く風光明媚な海水浴場もあるが、冬場は藪々と梢をわたる松風のみである。どうしたものかと全職員鳩首協議、兎に角何もないが「温い心で」迎えよう。そして学校の真実なる中学校経営を目ざして取組んでいる裸の姿、今まで苦心してきた姿を隅々までみてもらおう。それを何よりの土産にしていただこうと考えたのである。これは大会のあるなしに拘らず、本校の当然やらなくてはならないとなみでもある。この大会をこよなきよいチャン

スとして、更に前進したいものと考えたのである。

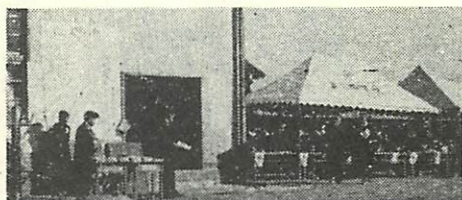
おかげで今から考えてみると、日頃やろうと思っただけで中々できなかった事ができ上ったり、緒についたりしたことは何より嬉しい事であった。更に思わぬ副産物は、以前から念願していたできなかった「愛知県中学校産業教育研究協議会」が、第一回文部省産業教育研究指定校より本年度までの指定校を打って一丸としてでき上ったことである。

こうした準備のため急拠上京本部と連絡をとったり、通勤の車中や待合室で池田先生との連絡のために何本手紙のやりとりをした事か。私も鞆の中へ便箋・封筒・切手はいっつも用意しておいた程であった。大会のすんだあと、先生と二人でなつかしい思い出として微笑したのである。

「温い心で迎える」根本は計画を密に、受入態勢を十二分にすることである。

◇道はひらける

環境や場は完全でなくても、ねらいどころは本筋を逸しない。そうした確信と安定感をもちて当りたい。それは私の心の底を流れる気持であった。このために上京連絡したが、運よく文部省の鈴木先生にも清原先生にも池



会場受付と立て看板

田先生と偶然一緒に遭えたのであった。また改訂要綱が審議決定した直後でもあったことは、今から思えばふしぎである。また吉田先生の本校学習工場の現場診断も、意外に早く話のついたのも嬉しかった。創立以来毎年々々機械を一つ入れ二つ入れ、学習工場を物置を改造し、キズを出したり、土間を区切って

拡充してきた結果は、各工場の機械が歴史的に追い込んである結果になったのである。これを何とか再検討し、科学的能率的に再配置したいとは前から思ひ、少しは手がけ

てきたのである。これは産業教育の施設設営には最も大切なことであって、案外考慮されていない現状であることを思うと、参会者の方々にも大いに参考になると思つたのである。十一月中旬吉田先生に来ていただき、つぶさに診断してもらつたのである。しかしこれは大きな仕事であった。

「窮すれば通ず」とか、幸いフリーニング工場の移転による織物工場の独立、小学校給食室を頂戴、フリーニング工場、石鹼

工場の移転、新川株式会社より作業台し寄贈、バイスの多量特別購入計画は意外に進展した。

◇準備の万全を期す

本校の態度として指導を受ければ、必ず検討し納得できればすぐに実践する。「日々に新たに」これがモットーである。このため工場設備の再配置を更に創意工夫、これが充実に着手したのである。何しろ傾斜盤一つ動かしにも一月がかりでコンクリートをたたき割り、ベルトを床下へ入れるしごとと並大抵で

はない。放課後も日曜もない。先生と生徒で取組んだのである。二十数台が動かれ配置されたのである。意外な大仕事のため中々捗らず、大会前日中には移転中で、丁度前日早くみえた講師団の稲田さんに巡視していただいた時「ここは明日は動きそうもないですね。」といわれ、「いや、出来上りをみていただかなくて、こうした苦惱する場面をみてもらうことも何より意義あることと思います。こうした場面をみていただきましょう。」と笑

いながら申した次第である。

或る工場主任は、とうとう夜があけ、大会第一日の朝七時頃家へ帰ったのである。私も寝られず、帰られず、殆んどまんじりともしないで当日を迎えたのであった。なお直接準備のためには、何回も職員会を開き、これが万全を期したのである。前日の夜おそく来会者の方々の御案内のため寒空に立っていたいた先生、宿屋の斡旋に奔走これつとめた先生——意外に宿泊する方が多く、隣の町へのぼし、それでもまかない切れず更に隣の町へもおねがいした——のである。この割ぶり・巡視・夜を徹しての資料袋の整備・会場控室づくり・本当に血眼の忙しさであった。

夜行で来られる方々の事を思い、「手荷物

一時預り」をも設けたのも「温い心で」の表われであった。交通事故でくちいた私の足の関節も漸くなおりかけた今日この頃であったが、余りの疲れに、学校で宿泊の朝、二階から下へ痛いやら関節がきかないやらで下りられず、腰板にへばりつくようにしてやっと下りたのであった。学校長も東奔西走、資金獲得に、本市有名生産品の展示に渾身これつとめられたのである。

◇協議会は進む

一番心配したのは天候の事であった。四百余名の会員を迎えて雨天だったらどうなることかと全職員神にすがる気持であった。明けて当日、翌二日目ともに絶好の好天に恵まれ、こんなにホッとしたことはなかった。

漸く受付も混雑してきた頃、せいの高い新潟の林さんがにこやかな顔で

「やあ、御苦労さまです。」

と我がことのように挨拶された時には「すっかり今までの苦労も忘れ、本日への闘志が湧いてくる感じがした。八月の妙高大会に如何に苦労せられたかが、会場を引き受けてみてしみじみわかったのである。しかし私はこの会も一人一人の会員が傍観的批判的な態度でなく、自分たちで盛り上げていく責任を感じ

なくては駄目だと思う。本校もこれで創立以来十三回の研究会をもったのである。

イ、本校の立場

公開授業そのものより、施設を動いている姿で公開してほしいとの本部の意向で、あの様な形になつたのである。創立以来不動の信念のもとに、苦闘して築き上げてきた歴史のあとを、具さに見ていただきたかったのである。

発表ももっと本質的なもの、即ち、真実なる中学校経営をどう考え、どう苦悩してきたか産業教育を通して広く新しい人間づくりの姿をお話ししたかったそしてじっくり話し合う時間が今少しほしいと思つたのであった。もっともっとくわしくお答えしたい。話し合いたい気持で一ばいであつた。

ロ、協議会

噛んでふくめるようにくわしく、親切に話して下さった鈴木先生のお話で今度の改訂要綱の本旨がよく分つたものと思う。最も会員の期待したのもこのお話であろう。色々直接御質問したいことも、会員には多々あつたと思うが、第一日で帰られたのは残念であつた。しかしこれも公務多端中をまげて来て下さつたことを思えば、感謝しなくてはなる

まい。

第二次建議で三十幾つあった○印が、今度の改訂で十七にすっきりしたこと、カリキュラム編成に當って相当巾をもたせたこと、第三群第五群を第二次建議よりはしぼること。それに一般普通教科としての性格づけを強調した点は、前進であると思う。しかし農・工・商・水産・家庭といった昔ながらの配列は、その根本的な考え方に於て齒がゆい感じがする。もっと現代日本がいのちをかけて対決してはならない、民族の課題である生産復興による自立経済の確立、これを負いもつ産業教育の中核としての職・家の性格を強調してほしいと思う。そこに職・家に取組む他の教科とは異った使命観と気魄がでてくると思う。

そして、こうした筋金を中学校教育の全体構造にガッチリ立てるところに、現代中学校教育の近代的使命があると思う。

本校は創立以来こうした教育方針のもとに苦悩に苦悩を重ねて積上げてきたのである。全国中学校がこうした不動の信念のもとに立上らなくては、日本教育の確立もなければ、日本社会の近代的前進もない。こうした観点に立つ時、もっと機能的に立体的に構造的に

各群も位置づけてもらいたい。即ち第二群に最もウエイトを置き、今後の産業のトップをいく化学分野は是非入れてほしかった。一般性のない養蚕を項目の中に温存したり「漁」を大きく抽出したり、更に奇怪な第六群がでてきたのは、どうも腑に落ちない。本校としては飽くまで改訂の基本精神は納得していくも、具体的経営に於ては今までの基盤の上で立って、前進していこうと思う。それは改訂要領の精神から言っても許される事であると思う。

吉田・福田・大森三改訂委員の先生のお話は、裏話もきかれ、いきさつが納得されて面白く聞かれた。こうした事は本大会に臨まなくては聞かれない魅力でもある。細案について触れていただけことは、非常に有難かった。細案をどう理解しどういう考えのもとにカリキュラムに編成するかが分ったような気がした。(しかし改訂委員としてのお話は余り主観を強く出されると感うので留意してもらいたいと思う。)

その後真剣な質疑もあって、本大会が終始緊張した空気で満たされていたことは、胸にひしと感じて、本大会の意義深いことを思った。本校に対する質問ももっと心ゆくまで時

間をかけてお話したかった。些細な施設経営の中にも八ヶ年の苦悩と真剣な取組みが潜んでいることを。それにしても余りにも時間のないのを残念に思った。

最後に林さんも言われたように意見交換の時間がほしかったと思う。しかしこれはあの充実した時間内では無理であったであろう。

◇大会も終つて

いよいよ終りになった時、北は北海道、西は九州、南は四国の全国からはるばる参加して下さった全会員の方々に本場に「御苦労さまでした。よう来て下さいました。」と感謝と感激の気持で一ぱいでした。こうしたひたすらに教育を思われるこの情熱の灯は、それぞれ全国に点火され、聖火として燃えさかることを信じて疑わない。どうか参会者の皆様、希望にもえる新春を迎え、あの大会を奇しき機縁として、愈々同志として御健闘の程心からお祈りします。尚こうした意義深い会に盛り上げ、実に御熱心に指導して下さい、連盟本部並に講師の先生方に厚く感謝したい。

× × ×

× × × ×

文部省改訂案による

第五群の教育内容について

池田種生

文部省がさきに発表しました、中学校学習指導要領職業・家庭科の改訂要綱(案)に引きつづき、教材等調査研究会委員会で審議を続けていた教育内容(案)が、昨年十二月漸くまとまって、都道府県指導主事に伝達されました。本連盟が昨年末、愛知県新川中学校で開催した冬季研究協議会では、資料として全文をプリントにして配布しました。

全部の群にわたって、私は未だ精しく研究していませんが、第五群に関する限りにおいては、何回も読みなおして吟味する機会を得ました。その結果は、不幸にも私が要綱(案)に対して批判した昨年十二月号の本誌の文中で、「ナワ張りの拡張競争が展開されるだろう」といった予言が、あまりにも的中しているのに驚いています。しかも肝心の家庭科の中心点は、明確さを欠いていて、結局は中学校の職業・家庭科の全般について考え、時間数を考慮し、現場の感覚に立っているとは思えないものがあるのです。なるほど第二次建

議の第四群で、六分野十四項目にわかれ、共通〇印が十一にわたっていたのに比較しますと、今回の要綱案の第五群では、五分野十一項目〇印四となつてゐるから「ワクを拡げすぎる」という批判をとり入れ、時間等も考慮されたいことは認めます。しかし、この教育内容では到底こなし切れるものではありません。また表現の仕方でも、この半分に整理し得ると、私は考えます。以下順を追うて疑問点をとりあげていきましょう。

二

まづ最初の出発点から考えて見なくてはなりません。それは、単に職業・家庭科だけに限った見方ではなしに、人間形成という全教育の立場、つぎに中学校教育の位置、そしてこの教科へと考えを進めなくてはならないことです。単的にいいますと、家庭科の教育内容の中、人間形成として果す教育内容は何か、小学校と高等学校・大学への単線型学制の中で、中学校の家庭科が受持つ教育内容は、どこに線を引くべきか、それが、中学校の全体の教育

(人間形成)にどんな役目を持つか、そして最後に職業・家庭科の教育内容全体から、時間の制約、教育的機軸にわたって考慮されるという手順を経て、すっきりしたものが打出されると思うのです。

これらに関する自主的な検討をしないで、ただあれもこれもと、意識的無意識的にナワ張りを広げ、他の群もあるからというので、止むなく嫌々ながら引をこめるといった消極的 he 動的な態度からは、真底からの筋の通ったものは生れてこないでしょう。何かそうすることが、自分の領域をせばめられるような不安にさえおそわれのも無理はないと思います。根本的には、その辺に問題がひそんでいるようです。

第 5 群				
家庭 経営	家族	住居	被服	食物
家庭 家事 労働	保育・家族 家庭 看護	住居 生活 計	衣生 被服 整理 製作	食生 調理

さて、上に示したのが、今回の改訂要綱の第五群の項目です。第二次建議の項目よりも整理され、○印も四つに減じています。しかし私の見解では、分野の「食物」というのは、他の分野と並べておかしいので「食事」とした方がよくないかと思えます。また下の項目が、食生活・調理とわけて、両方に○印をつけてあるのは、依然として疑問です。この両者は切

離すべきではなく、むしろ「食生活及び調理」として、○印を一つにした方がすっきりします。○印を食・衣・住にしほった意図は、それらが家庭の中心をなすという意味でしょう。しかし、後にのべ

る私の見解から申しますと「家族や家庭経営」はかなり重要で、男女共通の○印としては、食の所でダブっている○印を「家庭労働」または「家庭経済」につけたら如何かと思えます。むしろ「衣生活」の○をけづっても、その方が家庭の男女協力の立場からは新味があるからです。それらのことは、食・衣・住の中で理解させるといっても、それでは、なぜ女子だけに「家族」「家庭経営」といったものをおくのか。男子には「仕事よりも理解」というならば、むしろその逆である方を私はとりたいのです。○印のしほり方が自主的でなく、その検討が不十分であると、先に指摘したことがここにも見られます。

三

つぎに各分野の教育内容を逐次に見ていきましょう。

第一分野の「食物」の中の「食生活」の教育内容では、内訳と共に十一項目があげられ、「調理」では、四項目になっています。「食生活」で並べ立てたので「調理」の方が少なくなったという感じですが。事実両者の項目は、どちらにもまたがるものが多いのです。例えば、食生活の「食品群別摂取量の基準」以下の項目を見ても、調理をする場合に忘れてならないことばかりです。「食品衛生、衛生的な食生活」(これ自体ダブった言葉は、調理の項の「衛生的・科学的な調理」とどうちがうのでしょうか。食生活の仕事の例として「食物の見積り、献立作成食品購入」とありますが、これらは調理と切離せないもので、食生活の仕事としてわかる意味がわかりません。また調理のところで、米食依存、米食偏重と言葉が重なり、「各栄養食事の摂取」が、またもでてきます。先に「食生活の改善」

があつて、その他の内容でも「食生活の改善」が出るといった調子です。「言葉の遊戯もよい加減になさい」といいたくなるではありませんか。

被服の分野に入つて、三項目ありますが、これは「衣生活」の中に「被服整理」を入れることができます。衣生活の項目7で「被服整理の機械・器具とその使用法」とあつて、被服整理では、留意点として、共通の内容を基礎として「さらに深く、広く学習させる」とありますが、何をさしているのでしょうか。被服整理の機械・器具は、そんなに広くはないし、深くといつても全部を一通り知らなくては扱えないので、科学工業の技術などちがつて、それ以上深めようがないのです。序に、この留意点も整理できる言葉が多く、何か項目をわけたことを無理に意義づけようとした説明の言葉が多いのは、余計混乱を招くばかりだと思ひます。

被服製作は、比較的筋が通つています。なぜならかつての裁縫のむしかえしだからです。それ以上に出ないどころか、一体どの仕事にどれ位の時間を要するかを調査したことがあるだろうかと思はれるほど、その内容も仕事も多いのです。まるで仕立屋のお弟子さんよろしくといった感じがします。若しこの内容と仕事だけをやつて、それがすむ頃には、中学校三年間の全時間が終つてはしないか、とさえ思はせるほどに盛沢山です。殊に、あみもの・手芸・染色など、その範囲の広いことは、少し大げさないうなら、止まることを知らない女性生活全軌道を走る思いがします。

かつて私はある中学校の家庭科担任の先生から「裁縫の基礎技術を分析して徹底的に指導するには、時間が一ぱいで、あみもの・手

芸などには手が廻らない。やるとしても、これは家庭でも遊んでゐる時でもできるので、特に学校教育で時間をかけるほどのものかどうか」との言葉をきいて、全く同感したことがあります。これが自主的な研究態度から生れた考え方です。これだけの項目を打出すのに、委員諸氏はどれだけの現場の実践的な研究と調査をされたかを改めてお尋ねしたいのです。

四

つぎに住居にうつりましょう。ここでも、住生活と設備とつけた意味がわかりません。いうならば、前者は理解で、後者が実践ともとれないこともありませんが、住生活を考えない設備や改善はありませんまい。事実事例にあげられている、台所の改善、浴室、押入れの設計(住生活)と設備の設計を改善(設備)とどうちがうでしょう。むしろこの場合は前者の方が実践に近いといえます。住生活で「住みごこちのよい住居」の理解と実践する態度を要望し、設備で「よい設備をしようとする態度」を要望してありますし、衛生・能率などの言葉はここでもダブつています。また住生活の留意点では「住居のくふう改善については身近なもの、簡単なものから」とし設備では「住生活と密接な関連を保ちながら指導する」といった指導法にまで及んでいるのです。文部省は、そんな指導法を示すのではなく、もっと系統的に整然としたものがよいのではないのでしょうか。これは両者を合せて、ゆうに1/2の項目で表現することができます。また住生活の項目には、「職業とすまい」・「地域とすまい」・「近隣との関係」といった、一体どうしろというのか、わかつたようなわからないような言葉の羅列があります。こうした基本

的なものは、もっと概念を整理し、言葉を選定する必要があります。家族の所は、保育・家族と看護で、割合筋が通っていますが、それでも、前者の十七の項目はもっと整理することができます。 (たとえば、「家庭生活の意義」の中の小項目として、1から4まではふくまれ、2に「家庭と社会」をあげるという風に) また前文で「生活指導についての知識・技能」を習得させるとし、「生活指導と環境」というような、莫然とした項目を入れる必要はないと思います。看護では、保健衛生から家庭看護だけをとり出したので、割合まとまっています。これ位にすればよいのです。

五

家庭経営は、家庭科の社会的関連を持つ上で、教育的には重要なものといえます。その意味から、家庭経済・家事労働で取上げてある項目を、私も全面的に支持します。しかし、これが女子だけに扱われることに、私は先にのべたように反対ですが、それを肯定したとしても、最も大切なものが欠けていると思います。それは、女子の経済的支柱である職業について、項目にもなければ、前がきにもない点です。女子の経済的活動を無視した「家庭経済」は、「奥様業」の家庭経済以上ではなく、家事労働とても、女子が職業を持っているばあいと、そうでないばあいとは、様相はがらりとちがってきます。恐らく、こういう項目が重視されていない所を見ると、女子の社会的な職業への活動よりも、まさかと思いますが、内心では家庭にとちこもる「奥様業」が女子の理想像とされているのではないのでしょうか。

この両方を比較した場合、果してどちらが、一個の人間としての

女子の成長に意義があるでしょう。男女平等の原則に立つ人間形成の上から、どちらに重要度をおくのが正しいでしょうか。昔の奥様(封建時代の大奥の意味)ならともかく、家庭経済のありかたを民主的にする根幹として、このことは到底見のがすわけにいかない筈です。それなくして、一家の男子のみが経済的支柱である場合、家庭の民主化も家事労働の平等化も成立しないといえます。

労働省婦人少年局の調査では、一九五一年で女子の一四才以上の人口に対して、就業者は約半数の51%です。それを更にわけて、業主一四%、家事労働者六二%、雇用者二四%となっています。しかも男女を比較して、二四才までは男子を越しているにかかわらず二五才以下は急激に減じています。これらの数字は何を示しているのでしょうか。実は、これこそが、日本の「家庭のありかた」を規定している重要なものであることを、見のがすわけにはいきません。女子は生理的に男子と同じようにはいかにいまでも、日本においては女子の社会的労働をせばめ、男子の経済力に依存していくのが女子の道とされてきました。その立場から旧家事裁縫がとり上げられていたのです。現在では旧女大学式の良妻賢母主義は排除されていますが、代りに看板をぬりかえた精神主義だけでは、日本の家庭の民主化は、本質的に進む筈はありません。

六

先にあげた六二%の家事労働者を考えて見ましょう。これは農家などにおいて、一定の賃金を支払われるわけではなく、朝早くから就寝に至るまで、何くれと働いているもので、それは社会的に少しも成長する要素を持っていないのです。その代りに嫁入りの費用

(それも都合がつけば)してもらい、家庭に入ってまたそれをくりかえすのです。これはアメリカその他の文明国では、殆んど見られない状態です。

これを救う道は、女子労働者に対する社会的施設(例えば託児所共同すいじ)などが、国や公共団体、または会社で設けられねばなりませんし、それを要求する女子の自覚と、社会的成長を必要とします。それらのことが、家庭経営を通じて高められるためには、項目の中にとり上げられるべきではないでしょうか。

或は論者の中には、それは職業指導の領域だという人があるかも知れませんが。しかし現在の職業指導は、そこまで行ってはいないし、またあまりワクを拡げることは危険です。むしろ職業指導というよりは、社会的な内容です。社会的なものは社会科の領域だというのでしたら、家庭科には何が残るでしょう。理科的なもの、図工科的なものと同引去って行ったら、どうなりますか。結局は、旧家事裁縫となるのではないのでしょうか。現在では、雑然としたものを、家庭生活の視点からとり上げることに落着くのではないかと思えます。とすれば、特に家庭のありかたをさえかえていく女子の職業問題は、特殊な事情にあるだけに、重要な意義を持っていると思うのです。生活指導をとり上げるほどなら、せめてその中にふくめてでも、考えらるべき点ではないでしょうか。

以上のように考えてきますと、この教育内容(案)も、まだまだ問題点があり、整理される必要があります。これは絶対的なものではないのですから、より多くの実践家からの意見が出されるべきでし

よう。また小学校・中学校・高等学校・大学の限度とねらいも明らかにされなくてはなりません。その点について、ここでは触れることができませんが、後日の研究にゆづりたいと思います。

附記——本稿は本年三月末の研究協議会の材料にして頂きたく執筆したものです。次の資料を参照しながら御よみ下さるようお願いいたします。(筆者)

告 予 第五群中心研究集会

本連盟主催、恒例の中学校家庭(第五群)中心の研究集会を、三月末開催いたします。会場校は目下交渉中で、大体東京地区の予定です。

▽十分討議できるように、参加者はあまり多くを期待せず、連盟会員を優先的に迎えたい考えです。男女をといませんが、なるべく家庭担任者にとっています。

▽講師には、第五群の文部省委員、それに連盟常任委員が参ります。

▽会費・宿泊・申込み等については、日時・会場と共に三月号会誌に詳細発表しますから御期待下さい。

産業教育研究連盟

文部省改訂案第五群の教育内容

—三月末、研究協議会用資料—

▽食物(食生活)

食生活では、地域や国の食糧事情との関連における栄養改善、食品・食物に関する衛生の向上、食生活の簡素化について理解させ、これを実践する能力と態度を養う。

1、食品群別摂取量の基準

(1) 栄養所要量

(2) 食品の栄養的特質

(3) 食糧事情

(4) 食品群摂取量の基準

(5) 食物費

2、一日の食糧配分・献立

3、食品衛生、衛生的な食生活

4、食品の鑑別・購入

5、食生活の簡素化

6、家族の必要の満足

仕事の例

食糧および食物費の見積り、献立作製、食

品購入

留意点

1、栄養改善、食品衛生については、消費生活の立場からばかりでなく、広く生産・加工・運搬・販売などの立場からも指導する。

2、食生活の簡素化は、各家庭内だけの問題でなく、社会的な問題をも含むものである。

3、食生活の経済面については、家庭経済の立場で扱うばかりでなく、個人の食生活と国の経済や産業との相関関係についても扱うこととする。

4、食生活に関する知識理解は調理学習に関連して指導し、さらに日常生活に実践するように導く。

5、栄養は理科と、食糧事情は第一群・第四群・第六群と、購入は第三群と緊密な

関連を保って指導する。

▽食物(調理)

調理では、調理技術の習得と、食生活の改善を実践する能力と態度を養い、特に男子の場合は後者に重きをおく。調理技術では科学的・経済的な、調味その他望ましい技術の基礎を養い、調理作業の能率向上の見地から台所改善を進める。

共通に学習する内容

1、衛生的・科学的な調理

2、調理作業の能率と台所改善

(1) 主食の調理、米食依存の改善

(2) 副食の調理、主食偏重の改善、各栄養素の摂取

3、調理、食生活改善、食事作法

実習の例

飯(米・麦・雑穀・いも・豆)のたき方、めん類、パン食の調理、卵・魚・肉の調理
いもの調理、豆や豆製品の調理、乳や乳製品の調理、緑黄野菜の調理、脂肪を用いる調理、淡色野菜の調理、一品で多くの栄養素を含む調理

その他の内容

1、調理と経済(材料・燃料)

2、調理の鑑賞(味・香・色・形・舌ざわり)

3、調理、食生活改善、食事作法

実習の例

変わり飯・めん類・パン食の調理

しる物、煮物、焼物、揚げ物、いため物、

あえ物、浸し物、酢の物、蒸し物、よせ物

ねり物、菓子類、飲み物の調理(乾物の調理を含む)

食物の保存・貯蔵など

留意点

1、調理理論・食事作法は調理実習とあわせて指導する。

2、進歩した調理の手法や食生活の改善、

台所の改善は家庭において実践するように導く。

3、台所の施設・設備は第二群と調理実習は第一群・第四群と緊密な関連をもって指導する。

4、実習例に示す調理手法については必修の時間に導するように計画する。

▽被服(衣生活)

衣生活では、身だしなみをよくするとともに堅実な衣生活は、日常着に重点をおくことを理解させ、わが国の衣料事情を考えて、社

会的、経済的、また科学的、能率的観点から被服計画を立て、実践する能力と態度を養う。

1、身だしなみ

2、日常の被服の手入れ

3、被服計画とそのめやす

(1) 被服の種類と数

(2) 被服の修理、更生、新調の計画

(3) 被服費

4、被服の選択と購入

5、衣料事情

6、材料と洗剤

7、被服整理の機械・器具とその使用法

仕事の例

靴下、シャツ・ブラウスのまる洗い(湿式)

留意点

1、身だしなみは実践によって身につけさせるようにする。

2、被服計画や被服費その他については個人や家庭の立場からばかりでなく、つねに国の衣料事情に関連づけて指導する。

3、内容の1、2、3の(1)、5、6、7

一部は共通に学習させるものとする。

4、仕事の例は内容の6、7を実習によって理解させるためのものである。

5、整理・保存およびその機械器具に関する原理は、理科や第二群、洗剤などについては理科と関連づけて指導する。

▽被服(被服製作)

被服製作では、日常生活に最も必要な働き

着と休養着を中心として能率的、経済的、美的に被服を製作する技術を習得させ、なお手芸を利用した服飾品、室内裝飾品などを製作することにより、手芸の基礎的技術を習得させる。

1、裁縫

(1) 形、材料の選択・簡単なもののデザイン

(2) 採寸

(3) 型紙の選択・補正

(4) 用布の見積り

(5) 裁ち方

(6) 仮縫と補正

(7) 縫い方

(8) ミシンの使用法

(9) 仕上げ・たたみ方

(10) 着かた

2、編物

(1) 編物の形・材料の選択デザイン

(2) 採寸と型紙

(3) 基礎編

(4) 編み方

(5) 仕上げ

(6) 編物機の種類とその特色

3、手芸・染色

(1) 手芸

a 手芸の種類・材料・用具・デザイン

b 各種手芸の方法と仕上げ

c 簡単なフランスしゅう、ビニール細工

d カットウオーク、ドロンウオーク

e ぬいぐるみ細工など

(2) 染色

a 染色法の種類(ろうけつ染、絞り染、なっ染)

b 繊維の種類と染料、染色用具

c 染め方、仕上げ

e 染め方、仕上げ

仕事の例

裁縫

ブラウス、スカート、ワンピース、スラックス、ボレロ、単長着、あわせ長着、

羽織、こどもの衣類など

編物

手袋、ソックス、セーター、こどもの帽子、花ぐつ、ケープなど

手芸・染色

テーブルかけ、かびんしき、さらしき、のれん、ふるしき、手さげ袋、カラー、ぬいぐるみ、おもちゃなど

留意点

1、必修時間には一般的な日常衣類の製作に重点をおき、熟練を要する衣類や装飾品などは選択の時間に指導することとする。

2、第二群の「整備修理」「保守修理」で学習したことをじゅうぶん活用するように導く。

▽被服(被服整理)

被服整理では、被服整理のよしあしが、身だしなみや被服の寿命に関係することを理解させ、科学的、能率的、経済的に整理・保存に関係する技術を習得させる。

1、被服の種類と洗たく法

2、洗い方・干し方

3、仕上げ

4、しまい方と防虫剤

5、しみ抜き

6、つくりい

仕事の例

まる洗い、とき洗い、部分洗い、干し方、アイロン仕上げ、板張仕上げ、しまい方、しみ抜き、つくりい

留意点

材料と洗剤、被服整理の機械・器具については共通に学習する「衣生活」の内容を基礎としてさらに深く、広く学習させる。

△住居(住生活)

住生活では、地域の住居の実態や職業とすまいとの関係を知らせ、住みごこちよい住居にするため、衛生・能率・経済的に、また安全・快適にくふう改善することを理解させてこれを実践する態度を養い、あわせて住宅について社会的な関心を持たせる。

1、家庭生活の場としてのすまい

(1) 各室の機能と配置

(2) 家事労働とすまい

(3) 休養とすまい

(4) 家庭生活を中心とするすまい

2、職業とすまい

(1) 農家のすまい

(2) 商工業自営者等のすまい

(3) 通勤者のすまいの特色

3、地域とすまい

4、近代の住居ならびに施設の傾向

5、すまい方のくふうと住居の改善

台所、給水、排水、浴室、便所、押入れ、居間、寝室、勉強場など

6、近隣との関係

7、わが国の住宅事情と住宅水準

仕事の例

台所の施設、浴室、押入れなどの設計

留意点

1、社会科、図画工作科や第二群の学習と

密接な関連を保ち、効果的に計画して指導する。

2、理科の「家」の学習と密接な関連を保

って無益な重複を避ける。

3、住居のくふう改善については、身近なもの、簡単なものから実践するよう導く。

▽住居(設備)

設備では、住居に関する設備が生活を快適、衛生的、能率的にする上に、重要な関係をもつことを理解させ、さらによい設備をしようとする態度を養う。

1、各室の設備

(1) 台所 (5) 寝室

(2) 浴室 (6) 勉強場

(3) 便所 (7) 室内装飾

(4) 居間

2、屋外の設備

(1) 物干場

(3) 庭園、かこい

(2) こどもの遊び場

(4) 菜園、飼育場

仕事の例

設備の設計と改善

留意点

1、住生活と密接な関連を保ちながら指導する。

2、設備は理科や第二群と、室内装飾は図画工作と、屋外の設備の(3)、(4)は特に第一群と関連を図る。

3、設備の設計は、模型などの立体的なもので実習させ、あるいは見学により実際の指導をするように計画する。

△家族(保育・家族)

保育・家族では、保育と家族を一連のものとして、家族を理解し、家族の一員としての自己の立場を認識して、望ましい家族関係にし幸福な家庭の建設に協力する態度を養う。

特に保育に関しては、乳幼児の身心の発達と生活の特色およびその発達を助ける扱い方や生活指導についての知識・技能を習得させる。また乳幼児に影響する自己の責任を自覚し、なお広く社会的視野に立つて子どもを見る態度を養う。これによって子どもや青年の発達に関心を持たせ、自己の身心の発達変化とその衛生および純潔な生活について知らせる。

1、家族の一員

2、家族相互の理解

3、家族相互の協力

4、家族相互の満足な生活

5、家庭生活の意義

6、家庭と社会

7、乳幼児の身心の正常な発達

8、乳幼児の生活

9、乳幼児の世話・扱い方

10、乳幼児の遊ばせ方

11、生活指導と環境

12、児童福祉と子どもに関する行事

13、乳幼児に多い病気と看護

14、子どもの発育に影響するもの

15、子どもや青年の発達の特色

- 16、育児法の改善
- 17、少女からおとなへの変化

(婦人衛生、純潔な生活)

実習の例

調乳、離乳食、間食の調理

留意点

- 1、保育については必修の時間に幼児の保育と乳児の扱い方に重点をおき、内容の
- 7、8、10の乳児に関する指導は選択の時間に行う。

- 2、弟妹または近隣のこどもを観察し、理論と実際との緊密な関係において学ぶようにする。
- 3、こどもの世話や家族関係については家庭において実践するように導く。

▽家族(家庭看護)

家庭看護では、家族の保健衛生のうち、特に家庭に於ける看護の技術を習得させ、病人に対する正しい態度を養う。

- 1、病気に關する知識および病気に對する抵抗
- 2、病気の予防

3、家庭看護

- (1) 医師を招くまでの処置
- (2) 病室、病床、病衣

- (3) 病人の觀察、記録
- (4) 病気の房当
- (5) 病人の食事
- 4、社会施設の利用

実習の例

(2)、(3)、(4)、(5)に對する実習、消化しやすい食物の調理、常備薬・看護用品の整理箱の製作

留意点

- 1、衛生室を利用するなどして実習あるいは実演により指導する。
- 2、消化しやすい食物の調理は、離乳期の食物調理とあわせて実習させてもよい。
- 3、保健衛生は保健体育科で一般的学習をするので、ここでは特に家庭看護について指導する。

▽家庭経済(家庭経済)

家庭経済では、家庭において物質や貨幣を有効に使用して衣・食・住などを計画的・経済的に運営する方法を理解させるとともにこれを実践する能力、態度を養い、あわせて家庭経済と国民経済との関係、消費者としての位置と責任を理解させる。

- 1、家族の経済生活のめやす
- 2、支出と収入の状態
- 3、予算生活
- 4、物価の変動と家計
- 5、消費生活の合理化(物の選択、購入、使用)
- 6、記帳(家計簿)

仕事の例 家計簿 留意点

- 1、物の選択、購入、使用は衣、食、住などに関する実習に結びつけて取扱う。
- 2、第三群・第六群との関連を考慮して指導する。

▽家庭経済(家事労働)

家事労働では、家庭における労力、時間の合理的な使い方、家事労働を能率的に行う方法、休養・余暇のたいせつなことを理解させて、生活の向上を図る態度を養う。

- 1、家事労働の現状
 - 2、家事労働の価値
 - 3、家庭生活における物と金と労力と時間の関係
 - 4、生活時間の計画
 - 5、能率的な家事作業
 - 6、施設の利用
 - 7、疲労と休養・睡眠
 - 8、余暇の利用
- 仕事の例 生活時間の計画、仕事の計画 留意点
- 1、第六群の能率と安全との関連を図る。
 - 2、能率的な作業のしかたについては、衣食、住その他の実習と結びつけて指導する。
 - 3、従来、経験やかんで行われていた家事労働を科学的な方法で行うよう指導する
 - 4、家庭経済と密接な関連をもたせて指導する。

浜松市西部中学校の職業・家庭科

—— 中都市における一つのモデルとして ——

まえがき

西部中学校は浜松市鴨江町にある。中都市の中学校に一般的であるように、教職員五〇名、生徒数一八〇〇名をかかえた大きな学校であり、生徒の卒業後の進路は、進学者六八%、就職者三三%の割合をしめしている。

昭和二十七年以来、研究しつつ実践し、実践しつつ研究するという基本的態度のもとに、産業教育の一環としての職業・家庭科のあり方について、地味な研究と実践をつづけ、去る十二月六日、その成果を発表した。現在の段階において、本校の教育実践は中都市の中学校の一つのモデルと思われるので、ここに研究物から、その一部を要約して掲載する。

一、教育内容

(1) 選定の観点、(2) 選定の手順(略)

(3) 育内容配当表

第一学年 (○印内の数字は時間数)

△共通▽ 草花・野菜(だいこん・ほうれん草) ⑲ 庭木の手入れ ⑧

製図⑫ 木工花台 ⑨

記帳と配給(配給②、財貨②、貨幣③、現金出納帳④、締切り①) 珠算⑥

基礎調理⑩ 正しい身なり・洗剤⑧ 部屋の配置図④

△男子向▽木工本立⑮ プザーの製作⑨

産業と職業⑫

△女子向▽基礎調理⑨

家族と自己② 弟妹の世話② 家族の仕事分担④ スカートのソックス⑮

職業の理解④

△共通▽金工ちりとり⑫ 分解と修理(木工)

ミシン鋸機⑤ 電熱器⑦

単式簿記⑫ 珠算④

食の改善④ 衣の改善④ 住の改善④

職業の見方④ 就職と進学④

第二学年

△共通▽複式簿記⑥ 取引関係書類⑦ 貯金投資⑨

企業⑥ 珠算② 計算器②

△女子向▽消化食④ 応用調理⑫ スモック

⑫ 台所改善図④ 乳幼児の世話⑥ 病人の世話⑥ 家計簿④ 仕事の計画・生活時間⑫

二、施設・設備

工作室・職業準備室・理科準備室・作法室

△男子向▽いすの製作(木工機械操作)⑫ パイクモーターの操作と整備⑩ 自転車の分解修理⑥

商店の仕事と会計(仕入れ③、販売④、代

金決済⑥、取引書類⑪ 謄写印刷⑤ 運送

倉庫保険④ 伝票④ 商店経営③)

△女子向▽基礎調理⑭ 応用調理⑭ 単衣長

衣⑫ ブラウス⑫ 被服計画④ 押入工夫

図⑧

第三学年

△共通▽複式簿記⑫ 決算諸表④

わが国産業の特質と課題⑫ 経営の合理化

⑫ 職業人の心構え⑧

△男子向▽建築製図⑤ 機械製図⑭ 木工旋

盤① 平板測量⑧ ねじ廻し⑮ 屋内配線

⑧ コンクリート⑦

複式簿記⑥ 取引関係書類⑦ 貯金投資⑨

企業⑥ 珠算② 計算器②

△女子向▽消化食④ 応用調理⑫ スモック

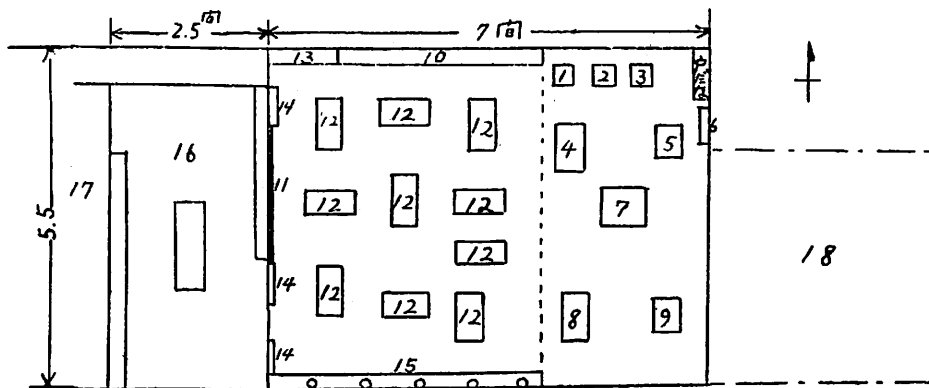
⑫ 台所改善図④ 乳幼児の世話⑥ 病人

の世話⑥ 家計簿④ 仕事の計画・生活時

間⑫

二、施設・設備

工作室・職業準備室・理科準備室・作法室



被服室・ミシン室・調理室が一棟にらび総坪数二〇〇坪。工作室に隣接して金工室をつくる予定。北側に天窓をとって採光照明が考慮されている。工作室の設備は、上図のとおりである。なお、現在までに、指定校への補助金をのぞいて、設備のためにPTAが支出した金額は、二〇〇万円である。

- ①ボール盤 ②動力ミシン編盤 ③グラインダー ④手押鉋盤 ⑤自動平削鉋盤 ⑥配電盤 ⑦昇降盤 ⑧木工旋盤 ⑨角のみ機
- ⑩万力台 ⑪黒板 ⑫工作台 ⑬製図用具戸棚 ⑭工具用戸棚 ⑮研場・洗場 ⑯準備室
- ⑰理科準備室 ⑱金工室予定地

三、単元構成の方針

- 1、各分野ごとに学習系列を乱さず、なるべくまとまりをもって技術及び実践を系統的発展的に学習できるようにする。
- 2、産業に関する基礎的技術や生活に関する基本的活動の学習は、その中にひそむ原理や法則を知的に理解し、合目的実験的に行うようにする。
- 3、産業及び生活に関する知識理解は、仕事に関連して学習せしめるを本体としたが、知識理解のみの単元もある。

4、単元目標は教育内容の価値的観点(教材観)生徒の興味や要求(生徒観)教師の指導目標や方法(指導観)に適するように定める。

5、単元の型や内容は固定的なものでなく、実践しつつ修正すべきものである。即ち教材単元的なもの生活経験的なものを共に適切に定めるようにする。

第一学年単元構成の基準 基礎的技術の習得、基本的活動の経験が組織的・系統的に行われ、職業生活・家庭生活の全分野に関して一般的理解を養うように考慮する。

第二学年単元構成の基準 二群三群又は五群を主として共働的訓練と個性発揮の機会を多くし、学習活動の中心となって技術の習得や実践的態度の養成の山となるようにする。

第三学年単元構成の基準 職業人家庭人としていかにあるべきかを理解せしめ、それらに関する技術や知識を習得し、これが改善向上の能力を身につけた「科学的道徳的な産業人」「民主的な家庭人」として、義務教育完成の目的を呈するように考慮する。

五、職家指導票の作成

指導票の性格や目的は色々な立場で考えられ、作業指導票と知識指導票あるいはオペレ

ーション指導票、ジョブ指導票、インフォ

メーション指導票等が取られているが、要するにわれわれ、現在の職業・家庭教育の不振と混乱など各種の困難な原因の多い中で担任して教育を推進しなければならぬ責任ある者としては、先づ第一に指導する教師の問題

を第一の重要事と考えた。その人的組織の面からも能力の点からも先づこの多岐にわたる色々な分野の教育内容を指導せねばならぬ職家教師のために準備すべきものとして、職家指導票を準備したのである。教師は仕事学習に当り、細密な技術のステップや用具材料の使用手順を生徒によく理解させた上で、誤りなく学習を進めるべきだが時間的にも能力的にも困難が多い。職家指導票は個々の生徒が教師の指導のふへん補足発展的にこれを利用して仕事の手順を誤ることなく手落ちなく系統的に学習を進めることができ、教師も、安心してその効果をあげることができると期待している。

しかし指導の実際に当ってはこれを更に具体化して生徒に与えるべき学習の便として要項を抽出した仕事指導票、知識指導票を作成するが、これは指導計画画面として次の研究

に着手した。

職家指導票は、要素作業分析表によって、選ばれた作業の要素の中、共通の基礎的な技術の段階や、関係ある知識を取りだして作成した。

西部中学校の教育実践の特長

(1) 学習指導要領、建議を実践家の立場からたえず検討して教育計画がたてられている。
(2) 産業教育の目的を達成するため、職業・家庭科と他の教科、とくに社会科・理科・図画・工作科・保健体育科との関連を研究し、その調整表を作成している。

(3) 実習・実験のための教室が教育的な観点から設計されている。設備品の配置も、学習効果をあげるように考慮がはらわれている。

(4) 木工機械の排塵装置に創意が生かされている。中学校にも木工機械がかなり備えつけられているが、排塵装置の完備している学校は少ない。この学校の装置は、一つのモデルとして参考になるだろう。

(5) 職家学習指導票を作成し、学習指導の効果をあげるように努めている。(研究物第五

集はそれにあてられている。)

(6) しかし、一般技術教育として重要な、電気分野、金工分野が手薄であることは、教育内容を見ても否定できない。機械も木工中心である。これらは、今後この学校が解決しなくてはならない実踏課題であろう。五カ年間にわたって、研究に実践に地味な歩みをつづけてこられた、この学校の先生方は、必ずこれらの問題を解決し、この教育の本すじを前進されるであろう。(清原生)

浜松市立西部中学校研究冊子

▽産業教育における職業・家庭科の教育実践案(発展の姿・第四集)

▽職家指導票(発展の姿・第五集)

以上の冊子御入用の方は、同校宛申込みのこと(代価三〇〇円)

長野県高陵中学校研究冊

▽産業教育計画の実践的研究(A判二六〇頁)

▽同(続編)プリント、B倍判

以上御入用の方は、長野県下伊那郡高陵中学校宛申込みのこと(代価三〇〇円)

機械工場で使われている

技術関係語いの調査

矢野敏雄

一、調査の目的と方法

中学校修了者が就職する機械工場において、どのような技術関係語いが必要であるかを分析し、それによって産業教育における言語教育のありかたを見きわめる一つの手がかりを得るために、この調査を実施した。

このばあい、直接産業現場で、日々使われている語いの集収は、実際問題として困難であるので、石川島重工業技能者養成機関の定時制高校の一年で使用しているテキスト工業一般を調査の対象として選定して、技術関係語いを集収して分析することにした。

テキストの技術用語の分析として、まずつぎの二つのことを手がけた。

① どのような語がどれだけあるか。それがどう

使われているか。

(a) 単語と熟語、複合語の問題 (各使用度とその比率の状況、語の分析結果、問題点など)
 (b) 単語における漢字語の問題 (使用率と使用状況、その分析と結果、問題点など)
 (c) 外来語(および外国語)における問題 (使用度とその状況、単語と合成語の比率、問題点など)

② どのような字がどれだけ使われているか。

(a) 漢字音訓の使用状況。
 (b) 同音漢字の使用状況。
 (c) 当用漢字表の使用状況。

調査の対象は文字言語であり、技術関係語であるから、それを漏れなく採集できる抽出の方法を考えなくてはならない。そこで文章中に含まれているつぎのような語、

① にある・とある・いる・たいする・おける
 ② こと・もの・とき・ほど・うち

③ あれ・それ・これ・ある

④ あの・その・この

⑤ 特に・一層・大変

⑥ しかし・そして・また

⑦ 前記・両者・他方・場合

などはとり除いた。またたとえば、「一〇〇ボルトの電燈線に、五〇オームの抵抗をもつ電熱線をつなぐ」という文から、「一〇〇ボルト、電燈線、五〇オーム、抵抗」などの語を抽出採集するばあい、どういう文章のどこからとったか、どう区切ったか、そこではどう使われているか、その前後関係はどうか、読み方は正しいか、二重採集のあやまりはないかなど、諸事情を予想しなければならぬ。

そこでわれわれは「語い採集の基準」「文章の区切り方」「見出し語の規定」「カード作成とその記載法」「カード整理と集計」などの作業計画をたてて調査をすすめた。

語い抽出作業の方法は、国語研究所が一九五〇年から実施している「婦人(生活)雑誌の語いの調査研究」に負うところが大きい。

その結果、記載カード一八六一三枚を採集した。カードを整理してみると、語いはつぎのように分類できる。

(1) ディーゼル機関・水・蒸気・ガバナーなど
——主要語い(A類)

(2) 発火する・動かす——副次語い

(B類)

(3) 一〇〇ボルト・一〇〇〇——数詞(C類)

(4) α 、 β 、cm km——記号・符号(D類)

これらの分類のうち、ここではA類語いを集計することにした。

集計の結果、A類語いは二九三八語、その頻度一二〇二〇を抽出した。

語いについては、各語の頻度、なりたち、外来語使用度、漢字使用度などを知るために「A類語い五十音順排列表」を作り、それを本表とし、さらに語い分析の必要から、この本表をもとにして、いずれも五十音順の「単語度数表」「漢字音訓別度数表」「外来語度数表」を作成した。

二、調査の結果とその分析

本表および各度数表による集計の結果は第一表のとおりである。語いは単語と外来語か

第1表

	語い数	単語数	外来語数	漢字数
A類語い	2938	1945	425	964
頻度	12,020	13,339	1,177	22,385

約十一・三倍であるが、語数においては、単語は外来語の約四・五倍である。

漢字は九六四字であるから、当用漢字表一八五〇字(義務教育漢字八八一字)の約半分を上まわって使用されていることになる。漢字の頻度が思ったより高いのは、単語の部分における漢字の使用度が高いことを意味する。以下この一つ一つについて検討してみよう。

(一) A類語いについて

ら構成されている。単語一九四五語は、語いにおける複合語を単語にバラし、それを語いにおける単語に入れて整理集計したものである。外来語も単語と合成語からなっているが分析検討のつごうを考え、単語は漢字とひらがな両表記の語とし、外来語とは区別した。

第一表では、頻度は単語が外来語より高く

第2表

	語い数	頻度
1 語	1776	9424
2 語	542	1249
3 語	89	106
4 語	9	9
5 語	1	1
計	2417	10789

第二表はA類語いのなりたちを、単語の複合数から分類してみたものである。この「一語」の語い数が第一表の単語数より低いのは、第二表

中の「二語」以上からなる複合語を単語にバラし、「一語」中の単語に重複しない分を加算したからである。その結果第一表の単語はその分一六九語が含まれていることになる。第二表によれば、単語一語からなるものが圧倒的に高い。それが二語、三語の複合語となるにしたがって低くなるのは、それだけ複雑な語いが少なくなることを意味する。いま頻度一〇以上のA類語い二二〇語(その頻度六二九五)中から、単語二語以上からなる複合語を抽出してみても、つぎの一二語しかみとめられず、それも二語からなるものだけである。クランク軸・蒸気機関・動き羽根・案内羽根・蒸気タービン・ガス機関・飽和蒸気・内燃機関・反動タービン・ディーゼル機関・カム軸・槓桿装置

第4表

機	関	タービン	弁	ポンプ	罐
×形機関 大形機関 ガス機関 ガソリン機関 可搬機関 揮発油機関 凝縮機関 空気圧縮用機関 空気噴油式四行程機関 串型機関 格子形弁機関 高速機関 小形ガス機関 小形機関 コーリス弁機関 三口型機関 三段膨脹機関 四行程循環機関 重油機関 蒸気機関 石油機関 対向気筒機関 多気筒機関 多段膨脹機関 堅型機関 単気筒機関 単式機関 単式蒸気機関 単働ガス機関 単働機関	単働式機関 単働式内燃機関 単流機関 中速機関 D形滑弁機関 デイゼル機関 デイゼル循環機関 二行程サイクル機関 二行程循環機関 二行程機関 二行程デイゼル機関 ニサイクル式機関 不凝縮機関 不凝縮機関	高圧タービン 後進タービン コンビネーション タービン 軸流タービン 蒸気タービン 衝動蒸気タービン 衝動タービン 外向複流タービン 多圧段衝動タービン 低圧タービン 廃汽タービン 反動タービン 船用タービン 反動蒸気タービン 複流タービン リアクションタービン リミットタービン 軸流蒸気タービン 多圧多速段衝動 タービン 多圧段反動タービン ドラパルタービン 内向複流タービン ハイプレッション タービン 反動式タービン 反復式タービン 複式タービン 複射流タービン 両向流タービン	円錐弁 給水逆止弁 槓桿式安全弁 重錘式安全弁 空気弁 格子形弁 自動弁 自動開閉弁 自動調圧弁 主蒸気弁 蒸気弁 蒸気止弁 絞弁 吸込弁 滑弁 底弁 吐出弁 排気弁 発条安全弁 複座スロットル弁 二口滑弁 燃料弁	渦巻ポンプ 給水ポンプ 回転式ポンプ 往復式ポンプ 往復式ポンプ 三連筒プランジャ ポンプ 三段タービンポンプ 三段式タービンポンプ 手動ポンプ 真空ポンプ 水圧ポンプ タービンポンプ 抽気ポンプ 直立型給水ポンプ 吹上ポンプ プランシャポンプ 横置式二連蒸気ポンプ	円筒形罐 円筒形多管罐 火管式罐 機関車罐 コクラン堅罐 コルニッシュ罐 蒸気罐 水管式罐 スコッチ罐 スターリング罐 外殻罐 タクマ式罐 堅罐 多管式罐 定置陸用罐 船用罐 船用型多管式罐 バブコック式水管罐 ランカシャー罐 内林罐 内林式罐

庄・中庄・低庄・背庄・風庄・湯庄」「質量・重量・少量・水量・全量・多量・熱量・分量・流量」などであるが、これが二二グループでこの熟語数一六九語がみとめられる。

第七表によると、たとえば「回転力・回転一式」「蒸発力・蒸発器」のように、同一語が各方面に分布している。これが二とおり以上の熟語、複合語をつくっている語を抽出してみると、六六語あり、その頻度は二三八におよんでいる。その主なものは、
 圧縮・圧力・一定・運転・円錐・円筒・回転・加熱・過熱・機械・機関・気筒・揮発・給気・金属・空気・格子・混合・軸・自動・始動・締切・蒸気・蒸発・真空・水管・吸込・水面・石炭・接触・損・縦・直線・鉄・取付・流れ・廃汽・排汽・排水・船用・発生・発電・発動・半球・反動・火床・標準・複射・復水・噴射・膨脹・横・冷却・冷水
 などである。

こうしてみると、技術用語における基礎語基本語とみてよいものが、熟語複合語のなりたち、くみあわせ、使用分布の状態などから整理できそうである。そのために技術用語における「字」および「一字語」の確保は特に

第8表

	A	B	C	D
A 類語	厚さ、厚み、長さ、速さ、広さ、太さ、深さ	当り、余り、乾き、交り、働き、始め、向き、戻り、終り、冷し、	揚巻き、かみ掛り、し切り、締切り、み、つり、取り、付け、見掛け、割合い	後戻り、渦巻き、下掛け、逆もどき、下向き、手入れ、灰受け、前掛け、横向き
機械工学篇	かたさ、もろさ	あふれ、遊び、遅れ、送り、たわみ、握り、割れ	押上げ、食差し、吸出し、すり合せ、し合せ、揺ぶる	けがき、心向き、出し
		控え、振り、曲げ、進み、押し、ささえ、止り、止め、ゆがみ、より	組立て、差仕え、吸上げ、吸込、吐出し、吹上げ、持運び、持行き	上向き、送り、下送り、外向き、縦送り、手回し、横並
		傾き、違い、向い、触れ	組立て、差仕え、吸上げ、吸込、吐出し、吹上げ、持運び、持行き	縦送り、手回し、横並

たいせつである。

単語の大半が漢字語であるが、そのばあい音訓の使用によって、漢字漢語の読み書きにおける抵抗の度合もちがってくる。国語国字の立場からいえば、一般に訓の使用の方がこのましいわけである。いまだ度数表から訓読する単語を抽出してみると、八五語みとめられ

る。やはり数は少ない。ただしつぎの漢字のところでは指摘する訓読字二八五字は語であるが、その大半を除外した。ここでは活用語から転化したものだけを抽出した。その結果整理すると、つぎのようにまとめられる。

A 漢字訓読字 104
 B 動詞連用形
 V 名詞

㉔動詞連用形十動詞連用形ノ名詞

D名詞十動詞連用形ノ名詞

これについて、試みに「学術用語集機械工学篇」を調べてみると、八五語以外に六二語もとめられるので、これもあわせて第八表にあらわしてみた。

表中の各語尾については、現行表記によると、誤読のおそれないかぎり、省略してよいことになっているが、ここでは訓読ということとを強調して、全部に語尾の送りがなをふつた。

これは話しことばとしてもよく、職場においてもわりあい抵抗なく受けいれられる技術用語として、今後積極的に検討してゆく必要があると考える。

㉕外来語について

外来語はカタカナで表記されている。

「外来語度数表」によれば、総数四二五語頻度は一一七七である。

まず頻度一〇以上をみると、ピストン、タービン、ポンプ、クランク、ヘッド、ガバナ、エンジン、エネルギー、カム、ドラム、ロッド、バケット、サイクル、ヘッダー、バルブ、ガソリン、キログラム、

ストローク、フート、プロペラ、ボンド、

の二一語、頻度九〇七を占める。頻度率は外語の約七八%を占める。ただしこの中には、単語としてでなく、合成語の部分として使われている単語も含まれている。

外来語には外来語そのままのものと、前後に漢字語をともなった外来語とがあるいまそれを外来語四二五語について検討してみると

①外来語……………二二〇語、頻度七五八
②漢字語十外来語…二〇五語、頻度四一九となり、語数は大差ないが、頻度差は大きい。②については、漢字語をとりさって整理すると、四一語となり、その主なものは上記二一語の他に、

アーチ、アングル、アンモニア、コイル、コークス、コック、シリンドラー、ステアー、ター、タンク、マグネシウム、マグネット、リレーなどである。

②については、語のなりたちから整理してみると、

- (a)一語からなるもの 七九語
- (b)二語からなるもの一一〇語
- (c)三語からなるもの 二四語
- (d)四語からなるもの 六語

(e)六語からなるもの 一語

である。紙数の関係で用例は省略するが、(b)の一一〇語はだいたい一語の外来語を組み合わせたものからなっているが、(e)の三語以上はほとんど原語(外国語)をカタカナで表記したものであり、その大部分は「エンジン」「タービン」に関するものである。

外来語については、つぎのような問題点をどうするかが指摘される。一つはカタカナの外来語とその翻訳語が両方とも使用されていることである。たとえば

水頭⇨ヘッド 油⇨オイル ばね⇨スプリング 弁⇨バルブ 機関⇨エンジン 円筒、円柱⇨シリンドラー 歯車⇨ギア 電池⇨バッテリー 管⇨チューブ、パイプ 制御、操縦⇨コントロール 蒸気⇨スチーム 軸⇨シャフト 節炭機⇨エコノマイザー かぎ⇨キー、フック などである。

このばあいどちらかを知っていればよいというのではなく、どちらかに統一できないだろ

うか。翻訳語と外来語に関連して、もう一つ指摘するなら、それは、たとえば「ハイ・スピード」「ハイ・プレッシャー」「ロー・スピー

ド」「ホース・パワー」などは合成語であり、原語は二語であるが、外来語では一語読みの取扱いをするのが普通である。このばあいその翻訳語はどうかというところ、「高速」「高圧」「低速」「馬力」となる。

今まで外国語が日本語にどのようなにもちこまれていたかを考えると、

外国語入 翻訳語漢字漢語 日本語

が普通だったようである。特に漢字使用の翻訳語では、一般に字音が多く使用されている。このことは字音による直訳が主として外国語の受入れ方であったからである。

このことは二重使用の統一を考える時、参考になるが、だからといって、いま国語国字の簡易化をこの方法で技術用語に全面的に適用することは、問題である。外国語の受入れが一般にルーズなのは技術用語においてでなく、国語国字に関する日本語の問題である。

例 漢字について

漢字九六四字について見てみよう。その頻度に二二三八であり、漢字の使用率は高い。そこでどのように高いかを、漢字の音訓別から分類してみると、

音読字 六七九 頻度一九〇七五
訓読字 二八五 頻度 三三一〇

であり、音読字が圧倒的に多い。これはたとえば頻度一〇以上の三〇三字中から訓読字を抽出しても、

水・罐・板・根・羽・口・車・力・形・吸・穴・込・台・高・油・型・大・出・右・働・動・歯・手・縦・強・左・小・炎・床・始・取・腕・絞・筒・切・焚・方・外・付・掛・溜・仕・玉・値・入・勢・片・附の四八字しかないことでもわかる。

音読字の使用率が高いことは、同時に同音漢字の使用率も高いのではないかという疑問がある。たとえば「作 差 査 左」「室 尖 質 湿」「測 側 則」などは、発音の強弱高低もない同音字であるが、異字であり、異義である。漢字の習得と使用におけるこの負担は一般に大きいといわれる。整理の結果、同音字グループは一一三みとめられ、その字数は五七六字である。九六四字の約五三%を占める。このうちたとえば、
・管・関・間・完・感・観・環・幹・簡・乾・鑑・換・桿・灌
・高・行・構・効・後・硬・工・口・向・鉉・

公・考・交・厚・抗・鋼・孔・衡・更・項・好・甲・降・楨・勾

など、一〇字以上のグループは一一、その字数一四五字である。

九六四字を当用漢字表に照らしてみると、義務教育漢字五七六(音四三九 訓一三七) 一般当用漢字二一七(音一六二 訓 五五) 表外漢字 一七一(音 七四 訓 九七) である。

現行の表記法では、表外漢字について、

- (1) その部分を表中漢字におきかえる。
- (2) 語そのものを他の語におきかえる。
- (3) その部分をかな書きする。

ことによって、表外漢字を整理することになる。これにより上記の一七一文字も整理できる。

しかしこのばあい特に「おきかえ」「いいかえ」については、語の一定の意味内容をあいまいにすることがないよう注意しなければならない。語と字の関係は密接である。たとえば「さんかく」「しかく」「まる」といって、「正三角形、二等辺三角形」「正方形」「円」といわない。そのことが用語を混乱させ、正しい意味内容をゆがめる結果

となることを注意しなければならない。

三、むすび

以上、技術用語の実態について、ごく一般的な方法で検討してみた。と同時に終始その基本語基礎語といえるものをいくらかでもさぐろうと心がけてきた。このことは基本語による技術用語の整理統一と、それに関する語や字の習得と理解をめざす言語教育—特に国語科教育における—における問題点を検討するという二つのねらいをもって出発しているからである。

分析結果から、語に関する問題点をまとめてみると、つぎのとおりである。

- ①漢字語特に字音語が多いこと、その結果同音字語があること。
- ②二語以上からなる複合語は、しばしば語や字が省略されて使用されていること。
- ③用語と職業語、話しことばと書きことばの橋わたしとなれる(第八表参照)訓読字語が少いこと。
- ④外国語と外来語のさかい、翻訳語と外来語の関係が明確でないこと。

技術用語にたいする反省としては、つぎの

ことが考えられる。

①複雑な用語たとえば「重錐式安全弁」のような二語以上からなる複合語だけでなく「水」「力」「重さ」などの一字語も技術用語とみなければならぬ。

②一語からなる語、特に漢字一字語から三字語について、その関係を明確にし、整理すること(第五表以下参照)。

③二語以上からなる語は、主に機関、タービン、弁などに関する複合語であること(第三表)。これを分離して単語とすれば、当然(2)に含まれる結果となる。

以上は技術用語における問題点と反省であるが、技術用語の国語国字に関連して、特につぎの二点を指摘しておきたい。

①国語教育との関係である。特に義務教育の国語科として、技術用語にどう対処しなければならぬか。なぜならこの面の言語習得は指導要領にも指摘されているからである。だが現状についていえば、たとえば本調査結果による使用度一〇以上の単語一五九語が、T社発行小・中国語教科書中にどのくらい含まれているかを調べてみた。その結果、小学校に七三語、中学校に五〇語が入っている。し

かし残り約半数の一三六語は、九年間にてでない。またS社の中学校国語の外来語を調べても、衣食住生活、日用品雑貨、文芸映画音楽放送、スポーツに関するものが主で、技術関係としては、「エンジン、モーター、メーター、スイッチ、キログラム」などがみとめられるだけである。以上のことは国語科において技術関係の語いが、ほとんど考慮されていないことをしめしている。

②技術用語も含めて、産業面における言語の問題は、国語国字問題として、ほとんどとりあげられていない。

以上のことは、産業教育と国語教育の問題として、今後検討をなすべきことといえよう。(国学院大学教育研究室)

本稿は連盟が文部省の科学研究補助費により、矢野氏を中心に進められた研究成果の概略である。矢野氏は、更にこの研究を続けていられる。今後国語教育上に大きな意義を持つと思われる。(編集部)

×

×

×

中学校職業・家庭科学習指導要領

改訂要綱及び教育内容 (文部省案)

去る十一月二十一日文部省から発表された改訂要綱(案)とそれについての各群の教育内容(案)の全文が漸く発表されたので、それをまとめて、冊子とした。冬季研究協議会の資料としたものであるが、残部あり、入用者は、定価五十円送料八円を添えて必ず前金にて申込みのこと。(本連盟会費前納者は送料当方負担する)

産業教育研究連盟編

職業・家庭科教育の展望

定価一五〇円
送料一六円

本書は産業教育の意義とその視点から中学校の職業・家庭科の性格を規定し、進んで教育内容を選定している。それと共に過去の歩みを展望する資料として、昭和二十二年の指導要領以来、最近の中央産教の第二次建議に至る八資料をとり入れている。特に占領下におけるオスボーン、ネルソンより提示された文書は貴重

な資料である。更にアメリカのインタダストリアル・アーツ、ソヴェトの総合技術教育の資料も取入れてある。

数学教育協議会・科学教育協議会・産業教育研究連盟発行

ソヴェトの新教科課程 (価二十五円)

送料 八円

ソヴェト文部省発表のもの。小学校、七年制学校及び中学校の一九五五年から五六年度の新教科プラン、教科課程の概要を知ることが出来る。

第一・第二群の設備基準

(昭和30年8月特集号・価五〇円 送料四円)

昨夏産業教育研究大会の資料で、農業的分野(中村邦男)工業的分野(鈴木寿雄)の設備基準を示し、工業的分野の学習指導法(稲田茂)及び海外の施設資料が入れている。

▽以上各冊子とも、必ず前金にて定価に送料をそえて、産業教育研究連盟(振替東京七七一七六番)へ又は現金封入で注文のこと。

編集だより

▽本号には、昨年末の研究協議会について、稲垣先生から感想を頂きましたので、それを報告代りに入れました。

▽三月末には、家庭科を中心に協議会を予定して、次号に詳細発表します。そのため発行も、本月末には出せるように努めています。

す。それにそなえるために、池田氏の克明な批判と、文部省の第五群関係の資料を入れしました。併せて読んで頂きたい。そして、皆さんでも意見を持ってお出下さい。(池田氏の反論も結構です)

▽矢野氏の研究は、相当長い日子と、努力に優れたものです。産業教育と国語教育を考え

るばあいの、一つの資料として尊いものと思っています。

▽次号は、日教組の第五次全国教育研究会の研究発表の中から、よき実践報告をとりあげて見たいと思っております。会員の方からの原稿も頂いています。もっともっとお寄せ下さい。(係)

職業と教育 (既刊分)

○同 十一月号

職業・家庭科技術指導の段階 (古屋正賢)
電気に関する学習指導法 (稲田 茂)

○同 十二月号 (家庭コース特集)

家庭コースの目標と性格 (アンケート)
家庭コース討議の鍵 (回答によせて)

○昭和二十九年一月号 (協議会特集)

産業教育運動への発展 (池田種生)
産業教育全国協議会の概況

○同 九月号

職業指導の実際運営(2) (後藤豊治)
ソヴェトの自然科学の教育(1) (杉森 勉)

○同 十月号

産業教育の本質と実践の方向 (池田種生)
中学校におけるポリテフニズム(長谷川淳)

ソヴェト自然科学の教育(2) (杉森 勉)

○同 十一月号

産業教育と国語教育 (国分一太郎)
ソヴェトの自然科学 (3) (杉森 勉)

○同 十二月号

第二次建議を中心の特集号
転換する職業・家庭科 (座談会)

(宮原誠一・厚沢留次郎・鈴木寿雄その他)

○昭和三十年一月号

数学教育における問題点 (遠山 啓)
産業教育への私の発言 (アンケート)

○同 二月号

第一次建議の説明 (長谷川淳)
第二次建議の説明 (鈴木寿雄)

全国指導主事会議質疑応答

○同 三月号

工業技術教育の歴史的構造 (山崎昌甫)
リンゴの学習指導 (海外資料)

○同 四月号 (品切れ)

○同 五月号

女教師の実態 (西尾幸子)
アメリカの家庭科教育資料

養魚場の見学 (海外資料) (杉森 勉)

○同 六月号 (特集)

機械及び工作室における
管理運営の研究 (群馬県坂上中学校)

○同 七月号

混同されやすい類似概念 (清原道寿)
第二群の学習指導 (杉田正雄)

第一群関係について (中村邦男)

○同 九・一〇月号

職業指導実践の指標 (後藤豊治)
石けん製造の学習指導 (杉浦弘幸)

○同 十一月号

学習指導計画について (土井正志智)
家庭科教育論 (池田種生)

写真真のやきつけ法 (菅谷茂久)

化学教材の学習指導 (海外資料)

○同 十二月号 (特集)

文部省改訂要綱批判号

清原道寿・長谷川淳・後藤豊治

中村邦男・池田種生・大口徹三

白鷺中学校と塩沢中学校紹介

以上各冊二十円(送料三冊まで四円)号名
明記、前金申込のこと。切手代用でも可

——特集倍大号——(別に送金のこと)

○昭和二十九年八月号 (価送共四四円)

産業教育の意義

職業・家庭科の位置づけ

教育内容の選定、参考文献紹介

昭和31年2月1日印刷
昭和31年2月5日発行 (定価二〇円)

編集兼 池田種生

発行者 池田種生

東京都中央区銀座東五ノ五

発行所 産業教育研究連盟

振替東京七七一七六番
電話銀座(54)二九七四